

理論談話会#3 研究紹介  
2022/4/22

交通・都市・国土学研究室 特任研究員  
北原麻理奈

(1)自己紹介

(2)研究紹介① 黒石

(3)研究紹介② 付知

# (1)自己紹介

生まれ：宮城県仙台市 育ち：青森県弘前市

2011年4月 慶應義塾大学 法学部政治学科 入学

2015年3月 卒業 学士（政治学）

2015年4月 慶應義塾大学 社会学研究科 社会学専攻 修士課程 入学

有末賢教授（地域社会学・都市社会学・生活史）  
・質的調査の方法、権力性/暴力性  
・他者の行為の合理性を記述すること  
・対話的構築主義-実証主義

2017年3月 修了 修士（社会学）

「まちづくりからみる地域の共同性－青森県黒石市中町こみせ通りを事例に－」

2017年4月 東京大学大学院 工学系研究科 都市工学専攻 博士課程 入学

地域デザイン研究室 窪田亜矢特任教授

2021年3月 修了 博士（工学）

「多雪地域の小都市歴史的な中心商業地における連担空間の変容に関する研究

－津軽地方黒石の「こみせ」と「かぐじ」に着目して－」

2021年4月～ 東京大学大学院 工学系研究科 社会基盤学専攻 特任研究員

2017年～ NPO法人urban design partners balloon（都市デザイン・まちづくり）

## (2)研究紹介①

地方小都市の歴史的な中心商業地（青森県黒石市中心部）における地域固有の空間（コミセ・カグジ）の変容と、それらを生かしたまちづくり・中心市街地再編手法に関する研究

### 問題意識：

歴史的な町並みのオモテ＝保全対象。↔町家群のウラは個々の家屋の独立性を保障するプライベートな領域、更新が難しい。歴史的な中心市街地の空洞化した街区内側にいかにして手を加え、活用していただけるか？

### 対象事例：

青森県黒石市 旧商家町エリア

### 目的・研究課題：

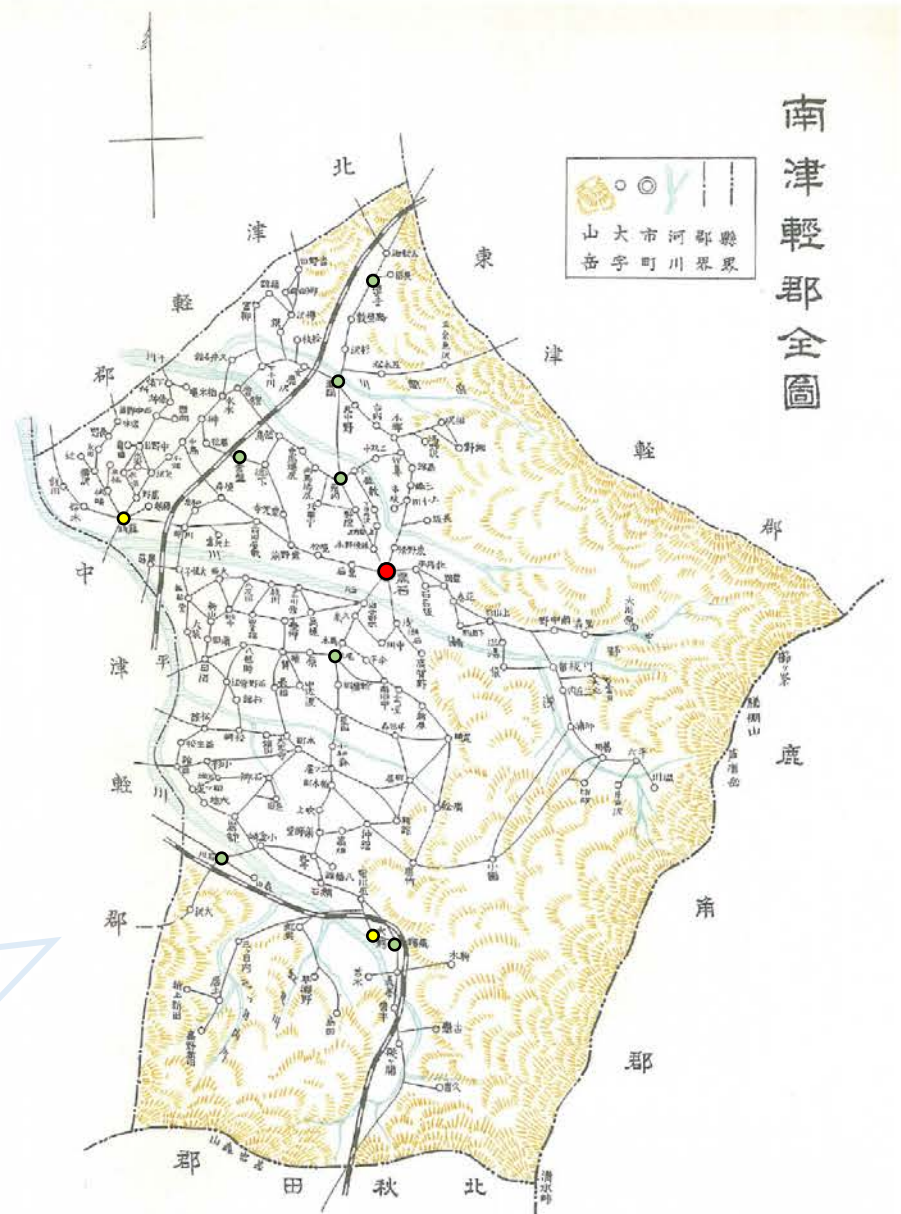
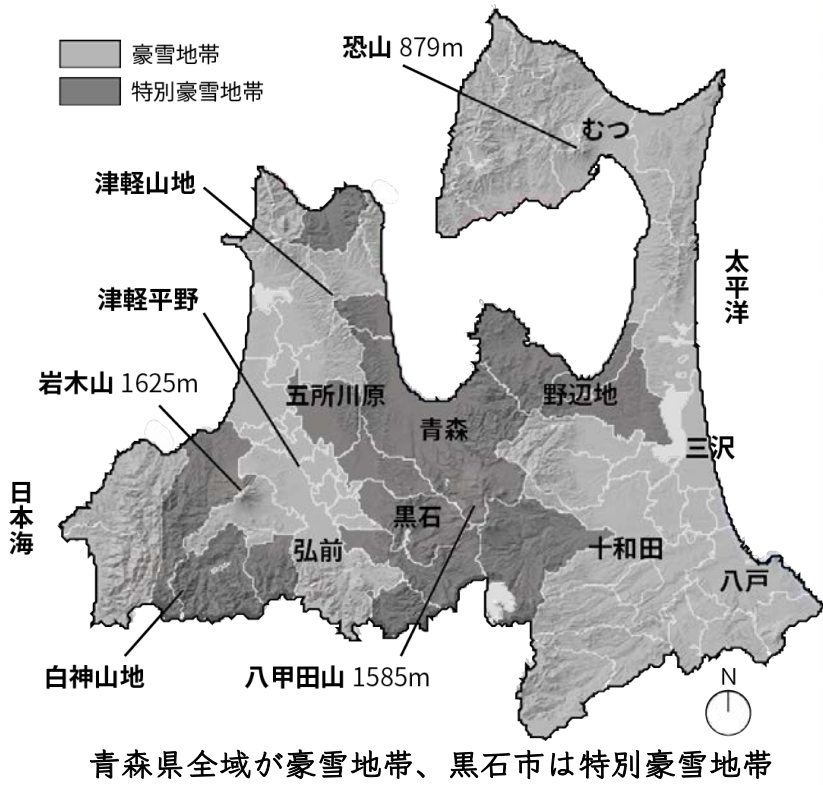
- ① カグジの所有・利用の特性の解明
- ② コミセとカグジがまちづくりに資する歴史的・観光資源として位置づけられたプロセス及び戦略の解明
- ③ コミセとカグジを生かした市街地再編の展開プロセスの解明

北原麻理奈・窪田亜矢「地方都市中心市街地の歴史的な地区における近代以降の土地所有変遷に関する研究－青森県黒石市中心部地区南西部・南東部を対象として－」,日本都市計画学会都市計画論文集,Vol.54,No.3,pp.313-320,2019

北原麻理奈・石山千代・窪田亜矢「地方小都市における歴史的な空間の保全・活用による段階的な街区再編に関する研究－多雪地域の歴史的な市街地、青森県黒石市旧商家町のコミセとカグジに着目して－」,日本建築学会計画系論文集,Vol.86,No.779,pp.161-171,2021



# (2)研究紹介①



明治42 (1909) 年時点の商業戸数

● 黒石町498戸 / 南津軽郡1,895戸

101~150戸 2村 ●

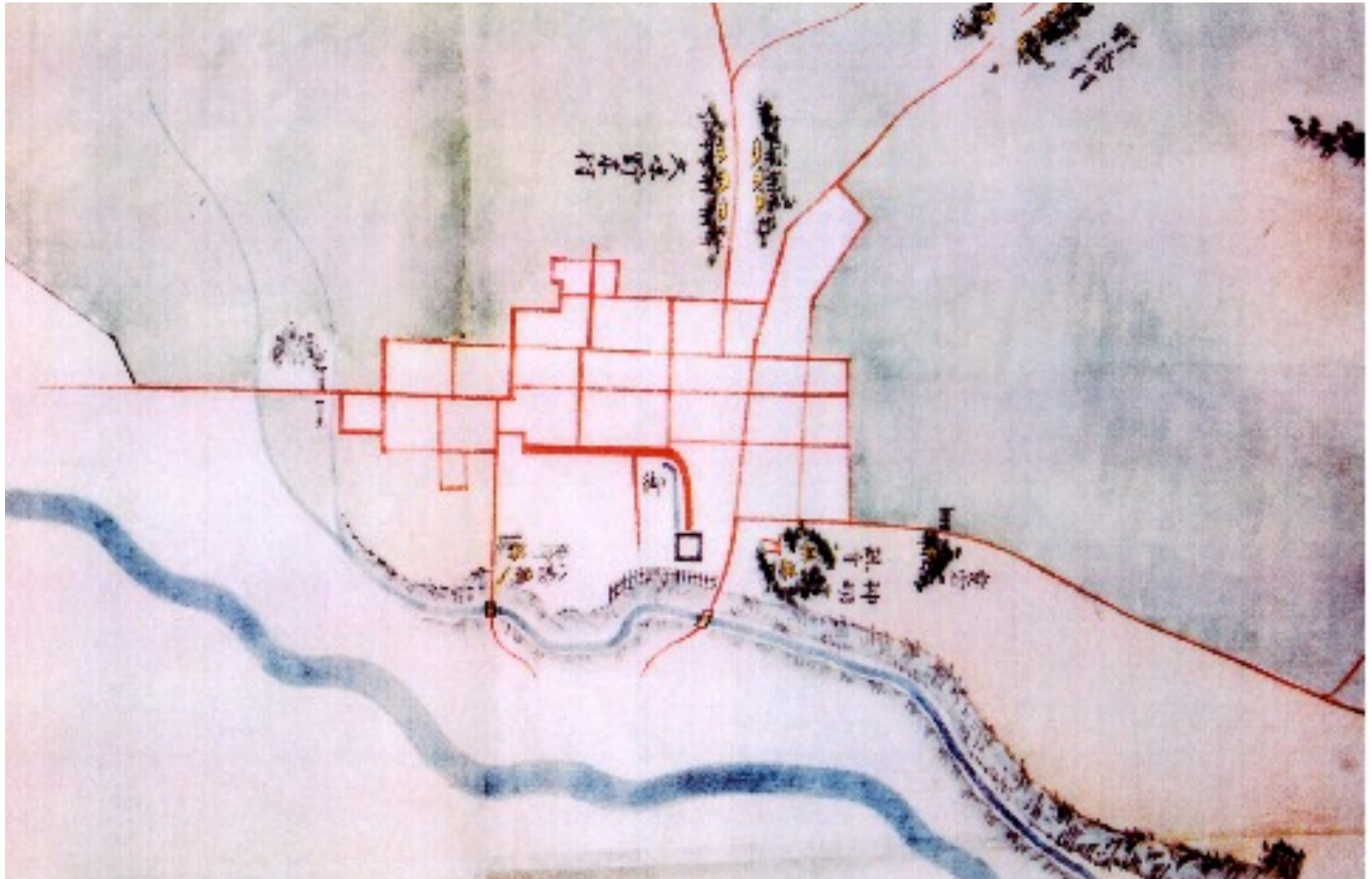
51~100戸 7村 ○

50戸以下 19村

農村城市 黒石

大正元年 南津軽郡全圖 (南津軽郡役所：南津軽郡是全, 1912)

## (2)研究紹介①



黒石絵図 元禄4（1691）年（転載元 黒石市教育委員会：黒石市中町こみせ通りの歴史的背景及び概要,2005）



## (2) 研究紹介①



1975年国土地理院空中写真に加筆

## (2)研究紹介①

地方小都市の歴史的な中心市街地（青森県黒石市中心部）における地域固有の空間（コミセ・カグジ）の変容と、それらを生かしたまちづくり・中心市街地再編手法に関する研究

### 問題意識：

歴史的な町並みのオモテ＝保全対象。↔町家群のウラは個々の家屋の独立性を保障するプライベートな領域、更新が難しい。歴史的な中心市街地の空洞化した街区内側にいかにして手を加え、活用していけるか？

### 対象事例：

青森県黒石市 旧商家町エリア

### 目的・研究課題：

- ① カグジの所有・利用の特性の解明
- ② コミセとカグジがまちづくりに資する歴史的・観光資源として位置づけられたプロセス及び戦略の解明
- ③ コミセとカグジを生かした市街地再編の展開プロセスの解明

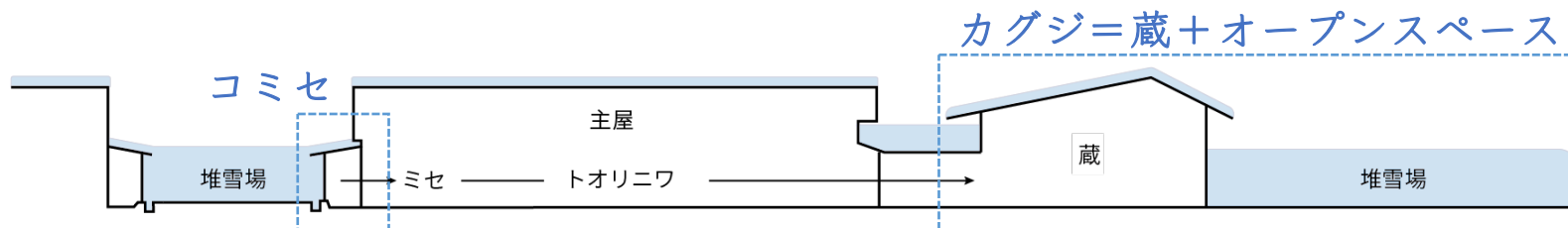
北原麻理奈・窪田亜矢「地方都市中心市街地の歴史的な地区における近代以降の土地所有変遷に関する研究－青森県黒石市中心部地区南西部・南東部を対象として－」,日本都市計画学会都市計画論文集,Vol.54,No.3,pp.313-320,2019

北原麻理奈・石山千代・窪田亜矢「地方小都市における歴史的な空間の保全・活用による段階的な街区再編に関する研究－多雪地域の歴史的な市街地、青森県黒石市旧商家町のコミセとカグジに着目して－」,日本建築学会計画系論文集,Vol.86,No.779,pp.161-171,2021



## (2)研究紹介①

### 課題① カグジの利用・所有の特性の解明



昭和54年（青森県所蔵県史編さん資料）

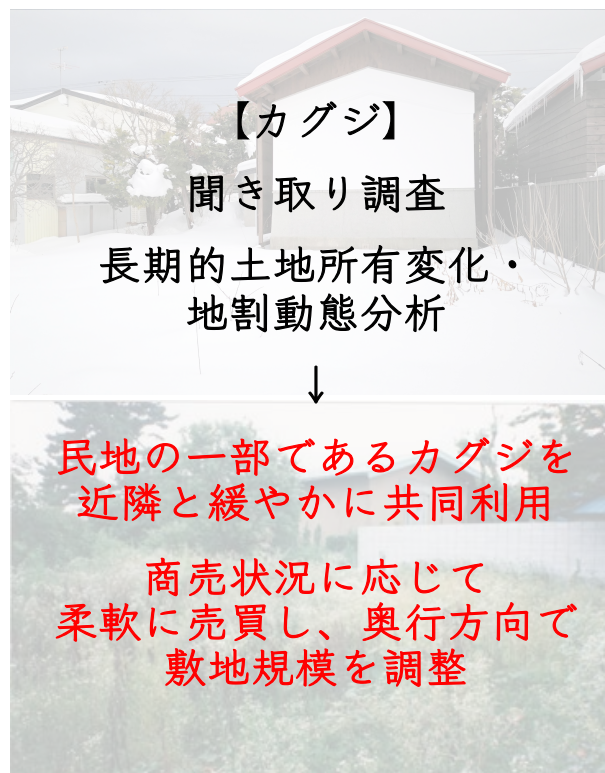
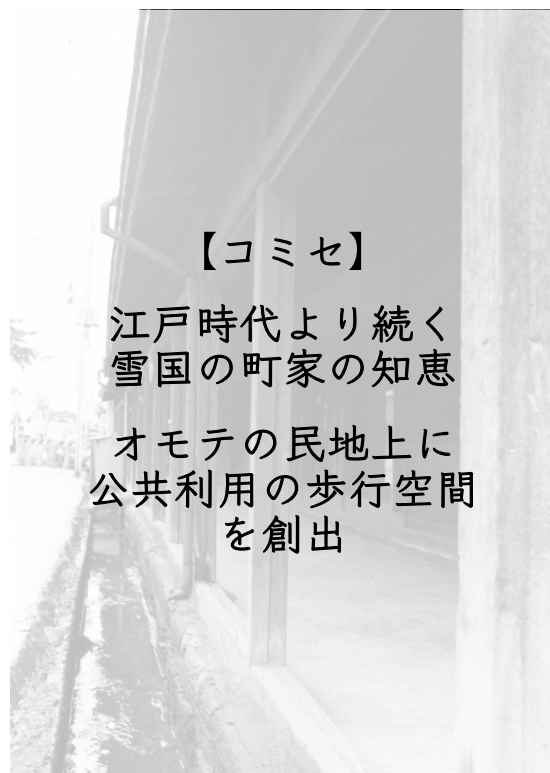
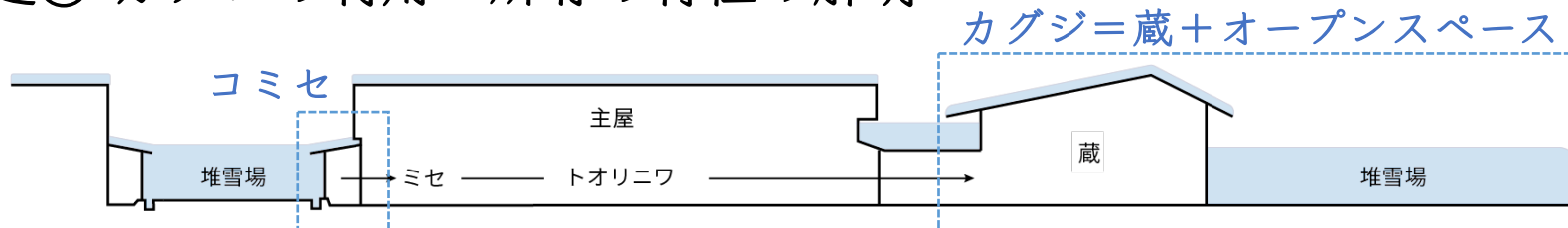
江戸より続く防雪性の歩行空間



雪捨て場・畑・物干し場・遊び場

## (2)研究紹介①

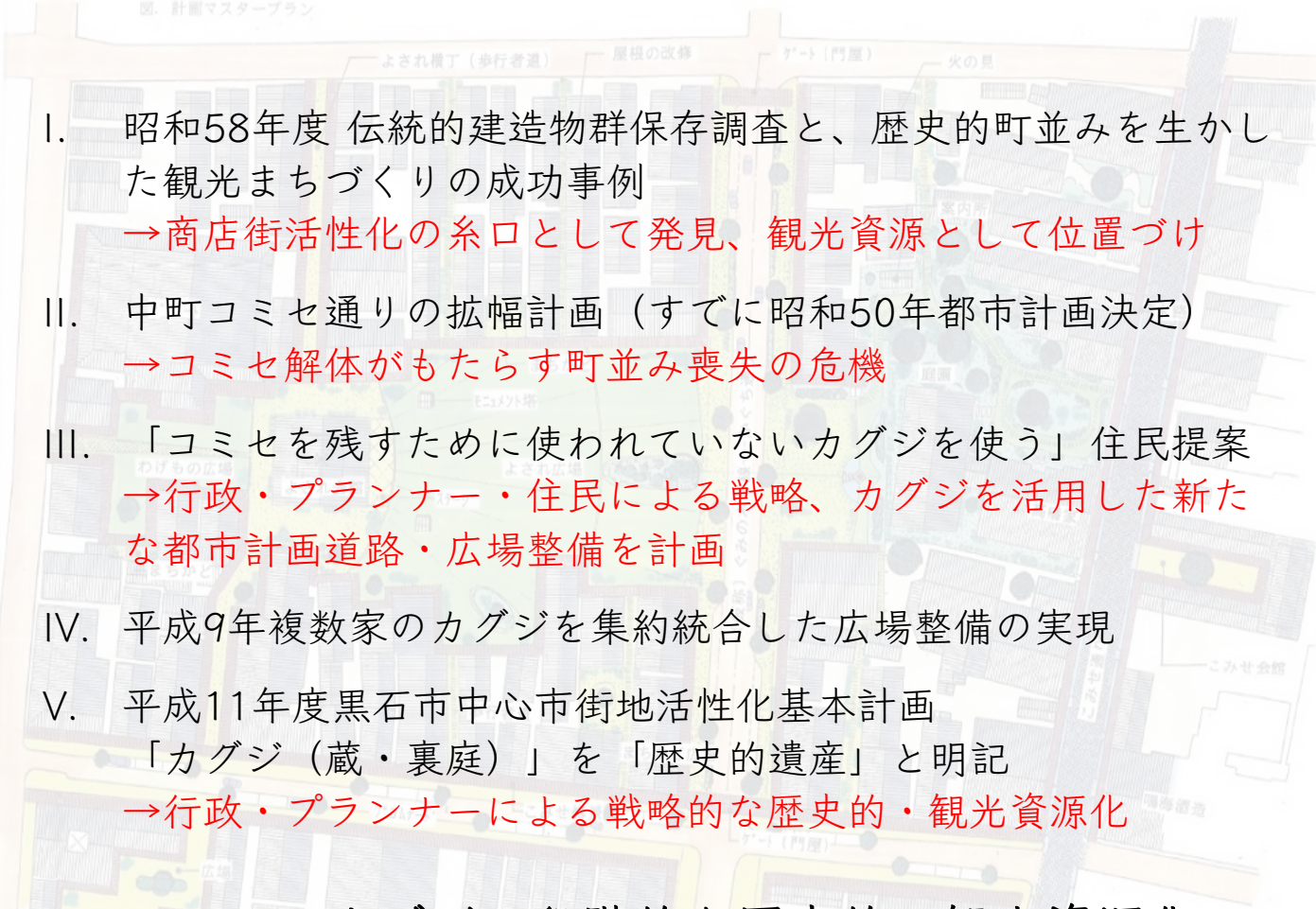
### 課題① カグジの利用・所有の特性の解明



黒石町家群のオモテとウラでの敷地境界を越えた利用・所有のメカニズムは、自然環境・閉鎖的共同体の中で商業地・居住地として共栄・共闘するための工夫

## (2)研究紹介①

### 課題② コミセとカグジがまちづくりに資する歴史的・観光資源として位置づけられたプロセス及び戦略の解明

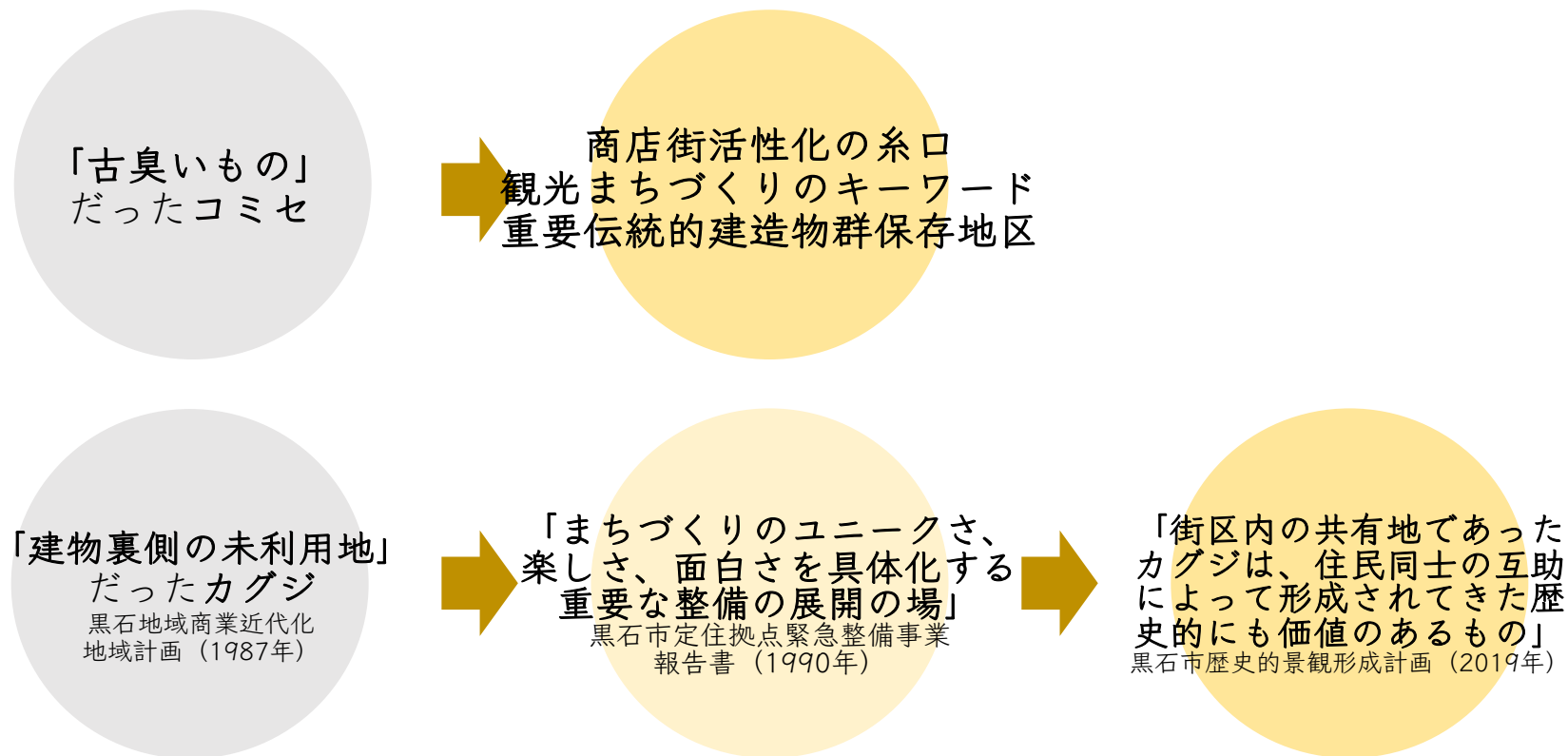
- 
- I. 昭和58年度 伝統的建造物群保存調査と、歴史的町並みを生かした観光まちづくりの成功事例  
→商店街活性化の糸口として発見、観光資源として位置づけ
  - II. 中町コミセ通りの拡幅計画（すでに昭和50年都市計画決定）  
→コミセ解体がもたらす町並み喪失の危機
  - III. 「コミセを残すために使われていないカグジを使う」住民提案  
→行政・プランナー・住民による戦略、カグジを活用した新たな都市計画道路・広場整備を計画
  - IV. 平成9年複数家のカグジを集約統合した広場整備の実現
  - V. 平成11年度黒石市中心市街地活性化基本計画  
「カグジ（蔵・裏庭）」を「歴史的遺産」と明記  
→行政・プランナーによる戦略的な歴史的・観光資源化

コミセ・カグジの段階的な歴史的・観光資源化



## (2)研究紹介①

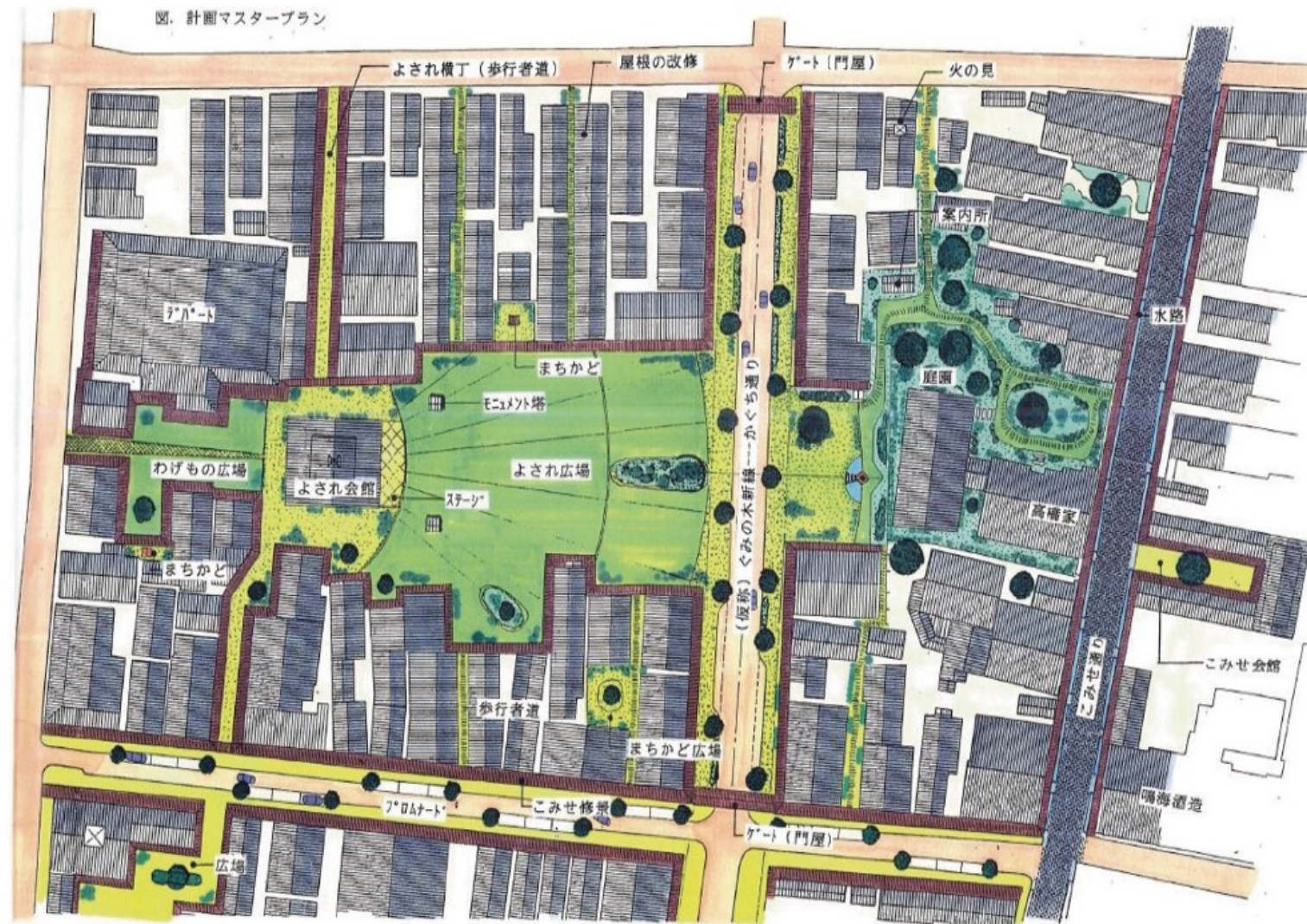
課題② コミセとカグジがまちづくりに資する歴史的・観光資源として  
位置づけられたプロセス及び戦略の解明





## (2)研究紹介①

### 課題③ コミセとカグジを生かした市街地再編の展開プロセスの解明



(出典：黒石市横町活性化実施計画、1992.3)

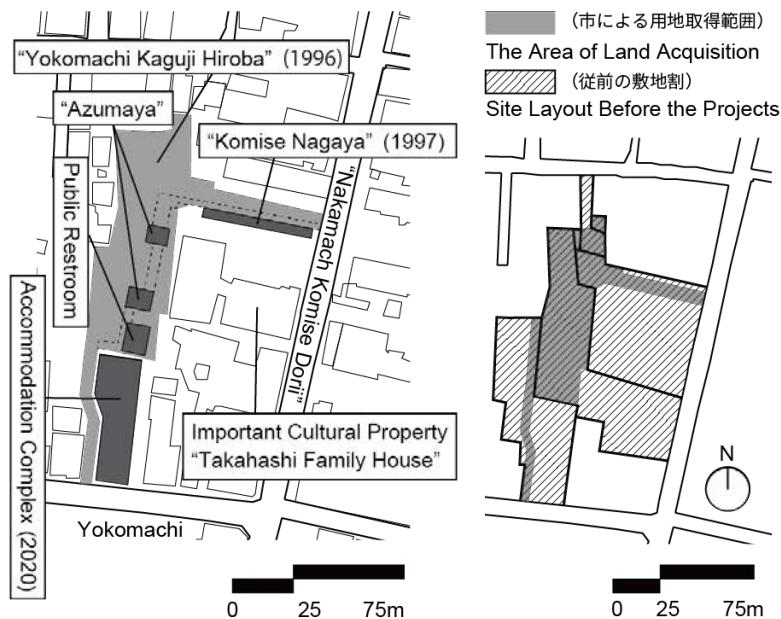


## (2)研究紹介①

### 課題③ コミセとカグジを生かした市街地再編の展開プロセスの解明

- 行政主体で5軒からカグジ部分を買い上げ、広場化
- 街区内部を抜けるコミセ風の回廊整備
- 段階的なコミセの再生

→街区内部の低未利用地を活用した回遊環境の創出



## (2)研究紹介①

地域へのアウトリーチ：

行政・プランナーへの成果の共有、プランづくりの基礎的資料

### 「市民の活力が充つる」まちなか再生をめざして

史料調査で発見した言葉の採用



黒石市まちなかエリアリノベーションプラン（2021年度～約10年計画）



## (2)研究紹介①

地域へのアウトリーチ：

行政・住民・プランナーへの成果の共有、プランづくりの基礎的資料

「市民の活力が充つる」まちなか再生をめざして

加藤宇兵衛 「修理と保護」（『烏城志』安西如鳩1913年）

「…黒石の発展ということは、単に町が広く大きくなるということではなくして、それには充実という意味も含んで居るだろうと思う。外に拡がるというのみでなく、**内に充つる**ということもなくてはならぬ。…黒石の町は現在の儘で、アレ以上大きくならぬともよい。但より一層**町民の活力を充たしたい**ものである。」

「…黒石の内部の修理をやらねばならぬ。黒石の人は、入るを量って出るを節し、而かも着々と黒石町を修理し、キチンと小締（こじんまり）した、何等の不足のない町にしたい。」

「それで今ひとつは風景の保護である。一家でいえば庭園である。庭園の無い家は殺風景である。…黒石の繁栄は必ずして至るものなれば、予は黒石の隆昌は、実にその内部の修理と、風景の保護とにあると謂うのである。」

「…盛んに産業を興し、事業を為し或は温泉を利用し、勝景を吹聴して外客を誘致し、大いに外から風を取り入ると同時に、黒石町の内部を修理して、実のある発展、真の繁栄を希望するのである。」

## (3) 研究紹介②

(2)-2

木曾川の支流付知川の上流域に位置する中山間地域（中津川市付知町）を対象とした、地域形成史に関する研究

### 問題意識：

中心と周縁の分断・格差の様相が、リモート社会の進展やモビリティの発達とともに変容していくことが予想されるなか、人口減少や高齢化、過疎化が著しい中山間地域に暮らす人々の豊かな暮らしを持続させるため、何を地域資源として再価値化して残し、地域の将来像に生かしていくことが必要か？

### 対象事例：

岐阜県中津川市付知町

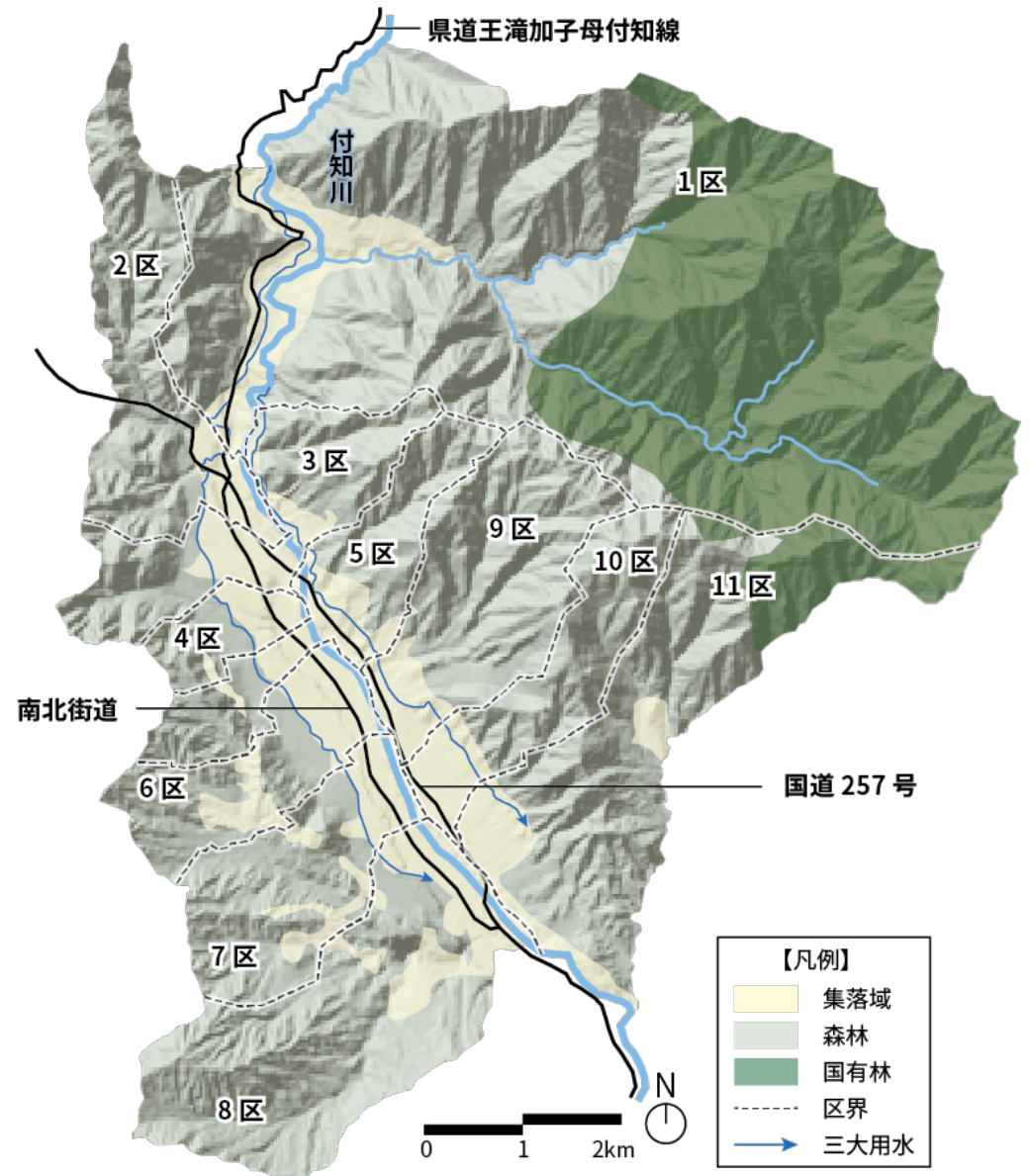
### 目的・研究課題：

- ① 伝統的生業（木材産業）に着目し、地形・水系・用水路・インフラ・土地利用との関係から見た、製材工場立地の史的変遷の解明
- ② 伝統的な民家の間取りと敷地利用形態の特徴の解明

北原麻理奈・児玉千絵・羽藤英二「中山間集落における明治期以降の土地利用変遷と国有林業インフラの転換との関係ー岐阜県中津川市付知町を事例にー」,第64回土木計画学研究発表会秋大会講演集

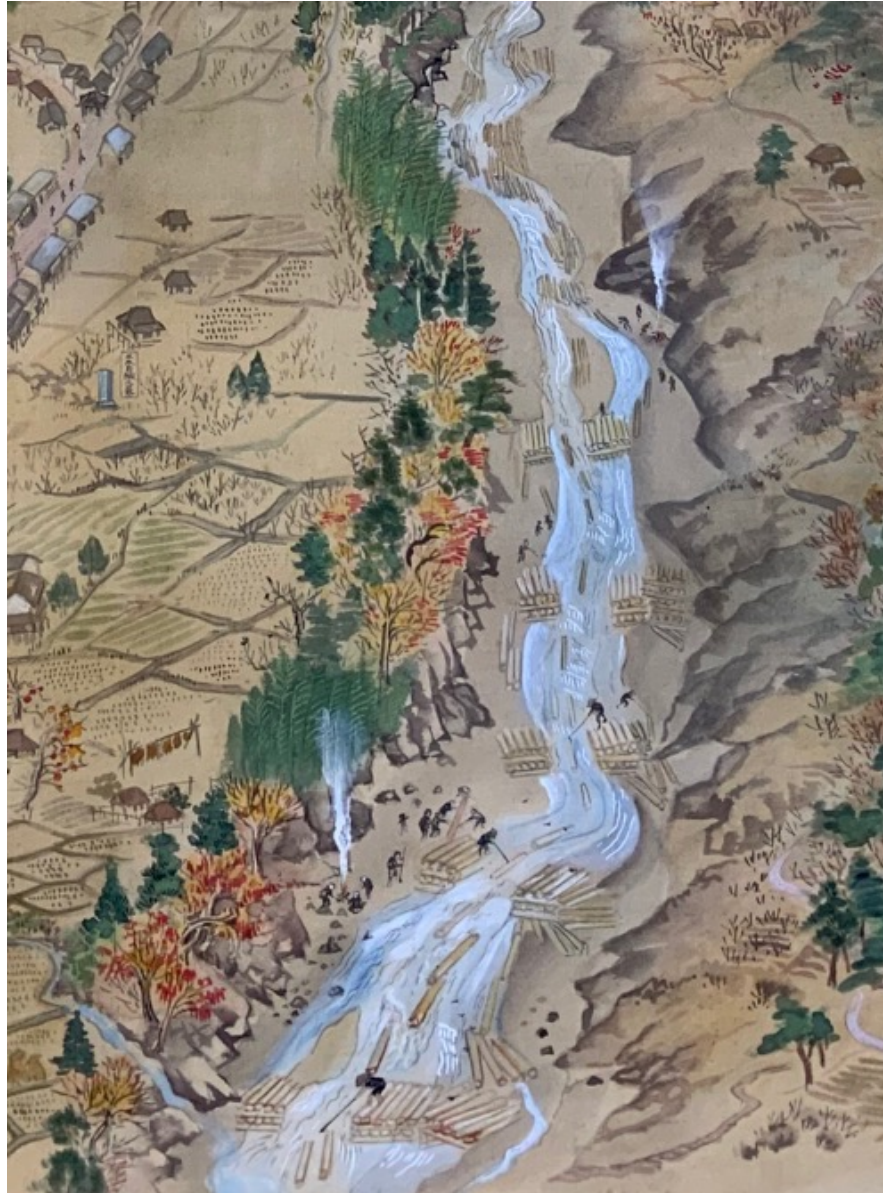
（現在建築学会計画系論文集で査読中：北原麻理奈・児玉千絵・羽藤英二「中山間地域における近代以降の木材産業の立地動態から見た地域形成過程ー木曾川支流付知川の上流域に位置する中津川市付知町を事例にー」）

### (3) 研究紹介②





### (3) 研究紹介②



付知川での川狩り（昭和12年 所蔵：東濃森林管理署）

### (3) 研究紹介②



下付知貯木場と北恵那鉄道下付知駅（所蔵：東濃森林管理署）



# (3) 研究紹介②

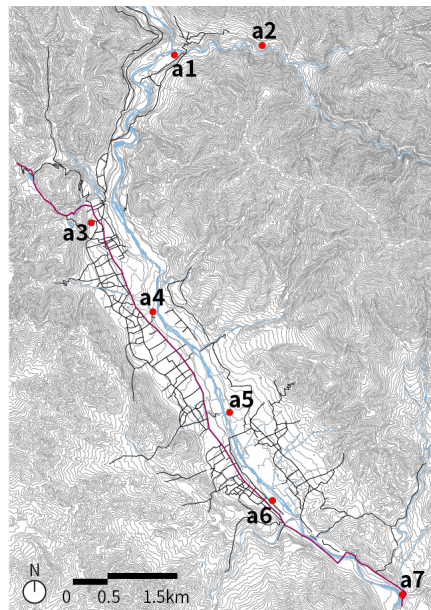
課題① 地形・水系・用水路・インフラ・土地利用との関係から見た、  
製材工場立地の史的変遷の解明

## 調査前の仮説

付知の山の木材を地元製材工場が効率よく入手するために、

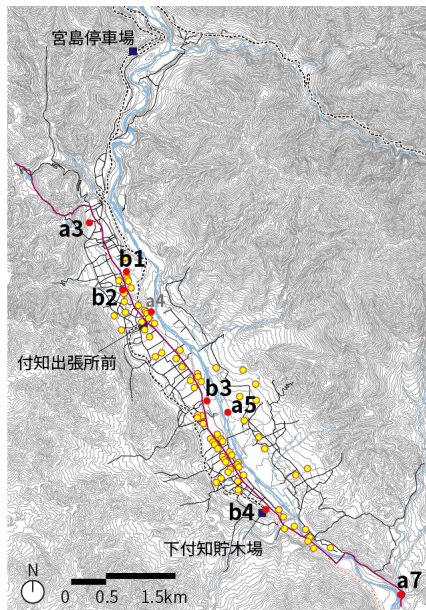
- 川狩り（木材の河川流送）の時代には、付知川沿いに製材工場が集積していた？
- 森林鉄道が敷設されたことで、鉄道沿いに製材工場が移転した？

大正8(1919)年



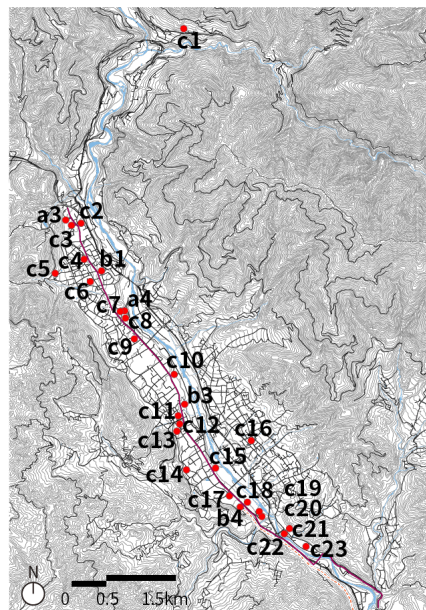
● 大正8年時点で存在した製材工場  
— 南北街道

昭和22(1947)年



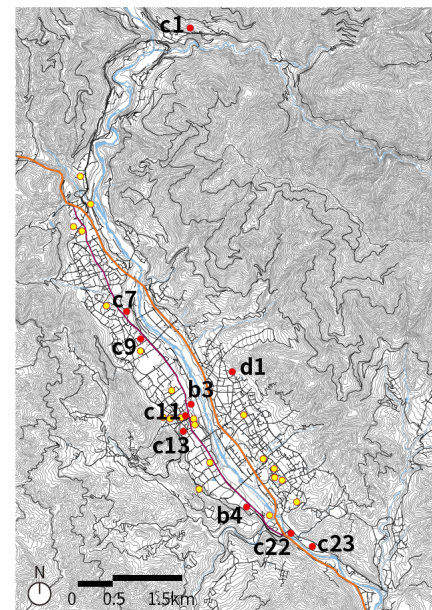
● 昭和22年時点で存在した製材工場  
● 昭和22年時点で存在した木工所  
..... 森林鉄道 ..... 北恵那鉄道

昭和48(1973)年



● 昭和48年時点で存在した製材工場

令和3(2021)年

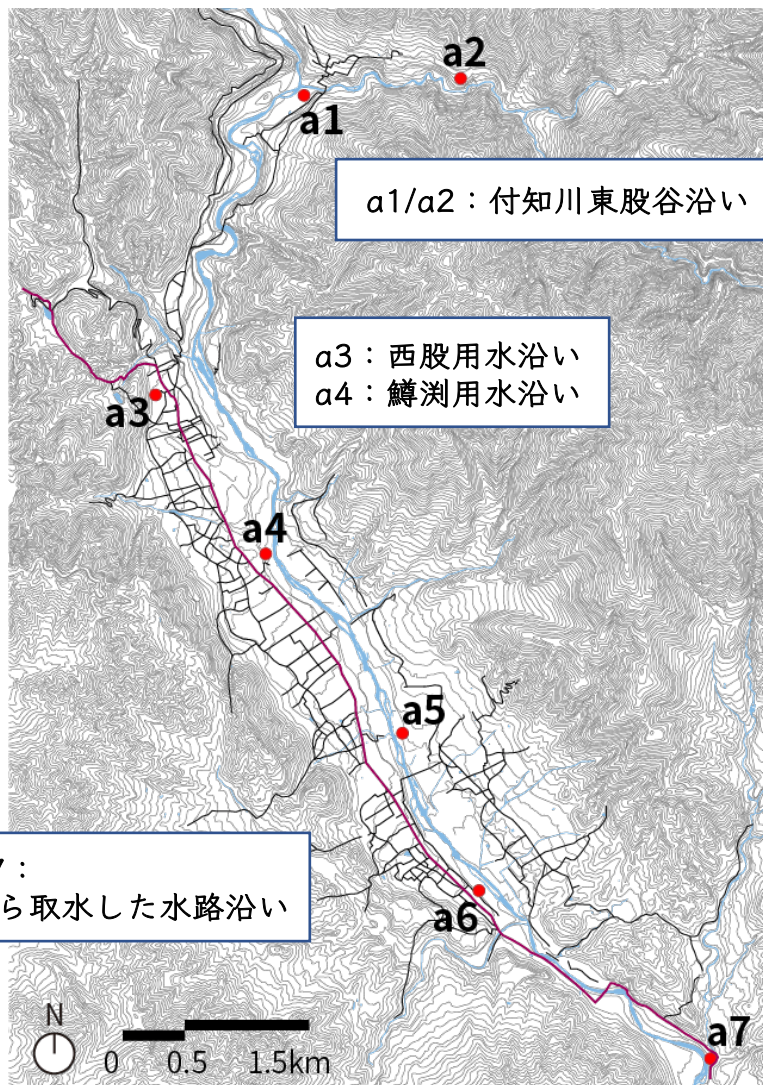


● 令和3年10月時点 北商工会付知支所会員製材工場  
● 令和3年10月時点 北商工会付知支所会員木工所  
— 国道257号線 (昭和58年全線開通)



# (3) 研究紹介②

大正8(1919)年

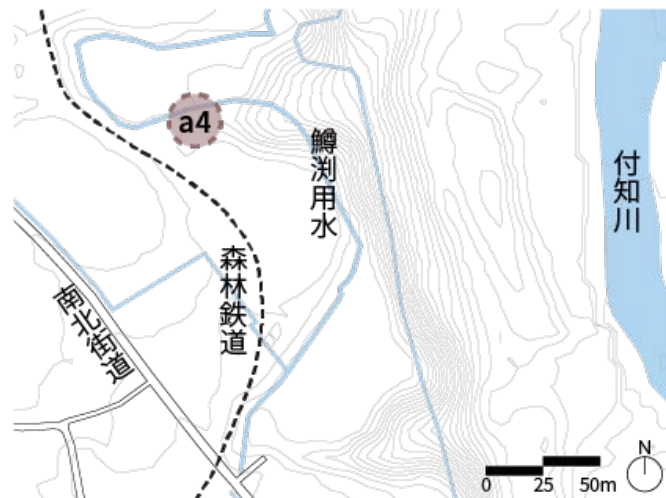


a1/a2 : 付知川東股谷浴い

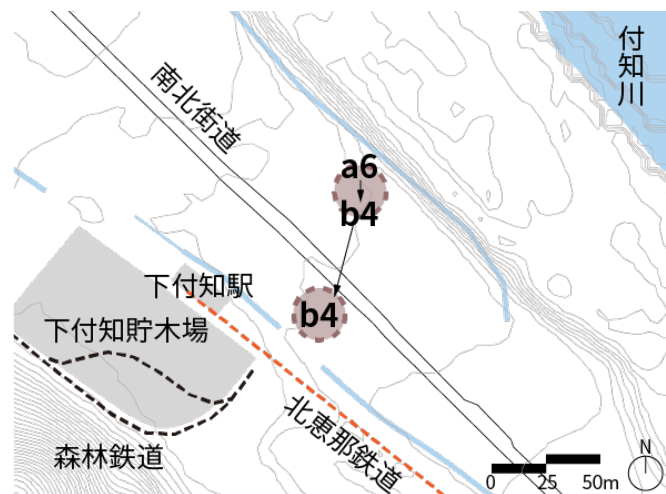
a3 : 西股用水浴い  
a4 : 鱒淵用水浴い

a5/a6/a7 :  
付知川から取水した水路浴い

● 大正8年時点で存在した製材工場  
— 南北街道



a4 (藤山製材) は水車製材のため鱒淵用水浴いに立地



a6 (野尻製材) は水車製材のため水路沿いに立地→b4 (熊澤製材) が街道沿いに移転



### (3) 研究紹介②



『付知川に於ける材木伐出の沿革と絵解 下巻』 川狩りの様子と藤山製材の水車が描かれている

水を動力源とした明治30年代～昭和初期、製材工場の立地条件は水資源との近接性が支配的

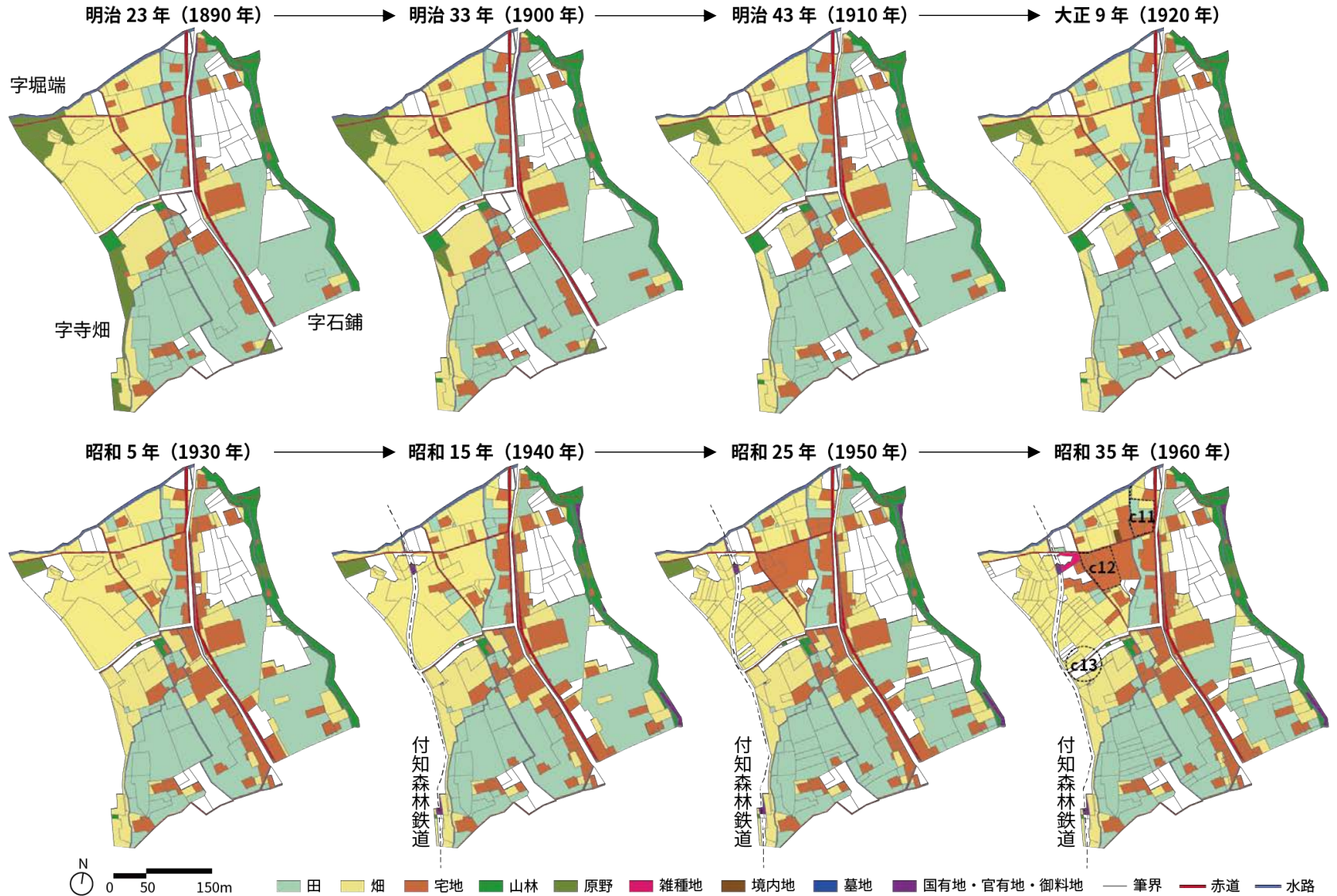




# (3) 研究紹介②

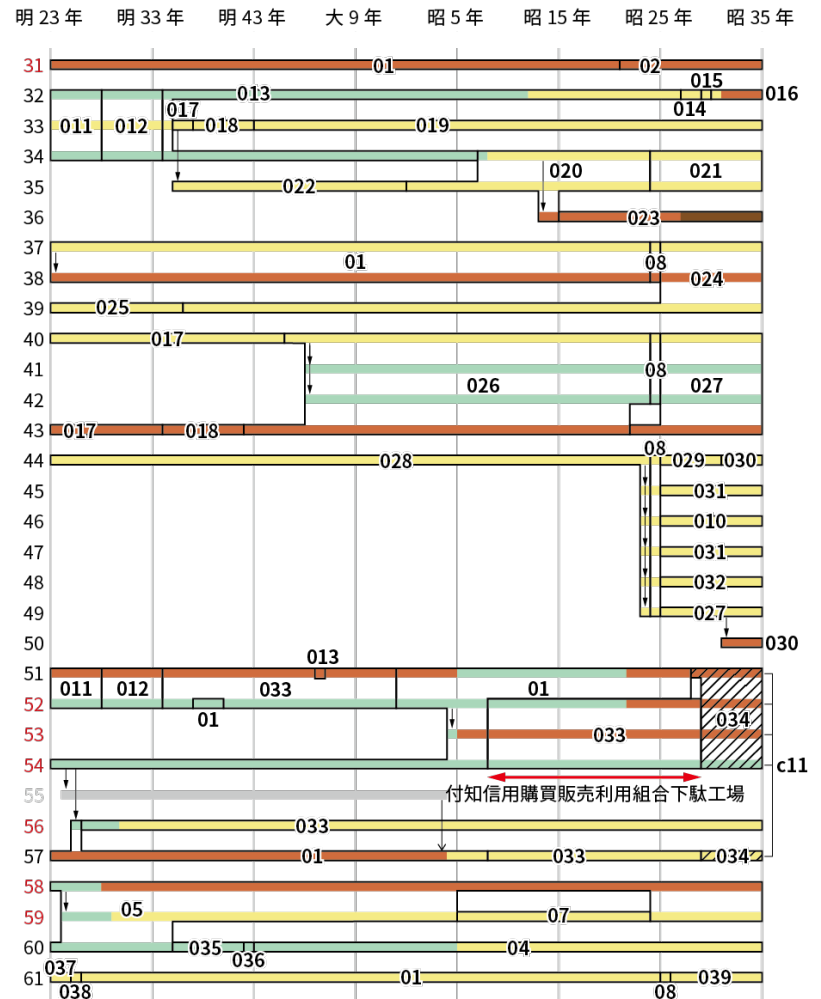
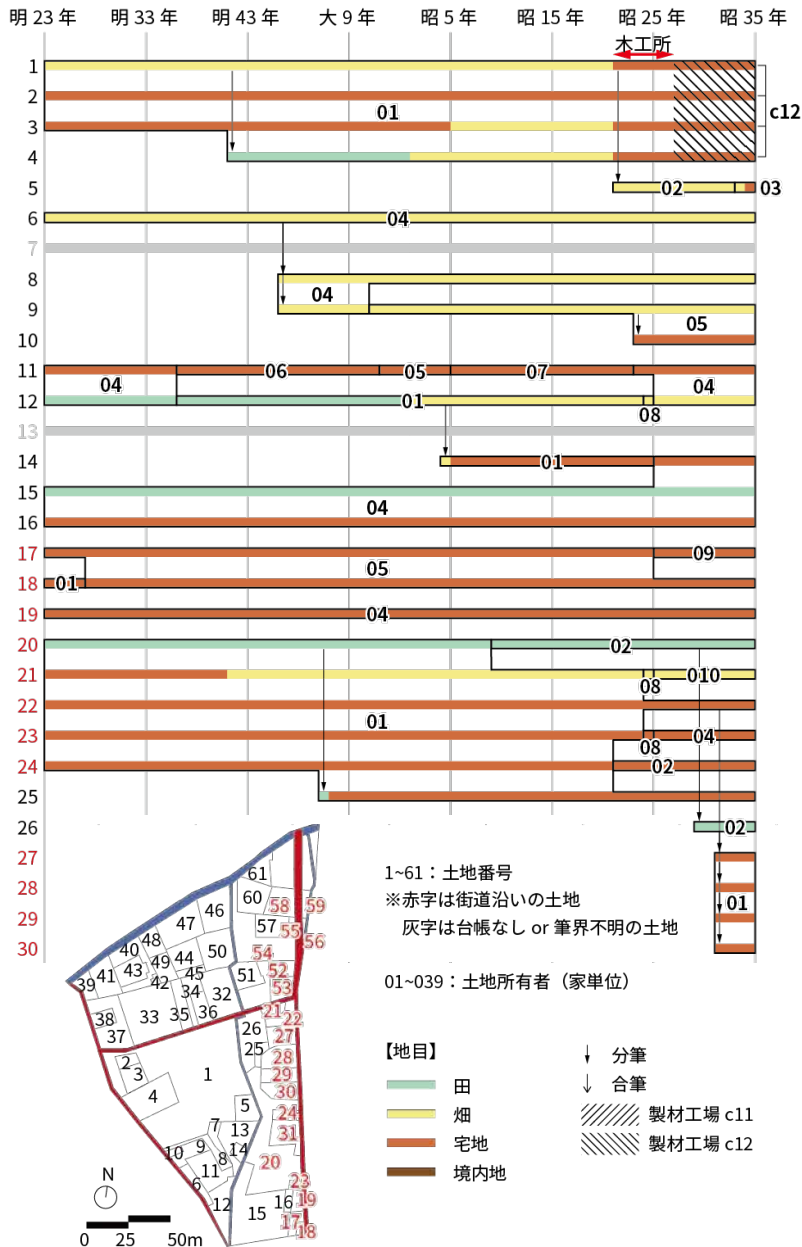
森林鉄道の敷設は集落の土地利用にインパクトを与えていない  
←森林鉄道で輸送される木材は、利用面で地元製材工場と切断されていたから。

## 【土地利用図の復元】





# (3) 研究紹介②



## 戦後の製材工場の動き

- 街道沿いへの立地
- 街道沿いの工場跡地の活用
- 広い敷地を求めた街道裏手や山裾の宅地化

## (3) 研究紹介②

### 課題① 地形・水系・用水路・インフラ・土地利用との関係から見た、 製材工場立地の史的変遷の解明

#### 調査前の仮説

付知の山の木材を地元製材工場が効率よく入手するために、

- **川狩り**（木材の河川流送）の時代には、付知川沿いに製材工場が集積していた？
- **森林鉄道**が敷設されたことで、鉄道沿いに製材工場が移転した？

#### 結論・考察

- **原料生産地**である中山間地域付知の製材工場は、水力を動力源とした明治30年代～昭和初期は、地形と水系を生かして**水路沿い**に立地。電力への動力転換後、幹線道路である**街道沿い**に立地。工場数が増加した戦後は、工場跡地も活用しながら、各々が広い敷地を求めて**裏手や山裾**に進出した。
- 森林鉄道や停車場、貯木場の存在は、工場の立地条件に影響を持たなかった。  
(←消費地・集散地である大都市と原料生産地での立地選択の大きな違い)
- 明治期以降の集落の土地利用変化においては、**運材インフラの転換**とは無関係に、**街道沿いの宅地の連担形成**が卓越。明治20年～30年代の街道改修工事を契機に、街道を軸とする明瞭な地域構造が成立した。  
(←製材工場のまとまった動きが地域構造の変容を方向づけたという側面×)

### (3) 研究紹介②

#### 地域へのアウトリーチ：

地元小学校6年生と、地域資源の発見を目的とした地域教育プログラムの企画・実施



林業・木材産業の歴史に関する授業 + 製材所・貯木場・森林鉄道跡の見学ツアー(2021年12月)





### (3) 研究紹介②

地域へのアウトリーチ：

社会実験の企画実施・ツーリズム案内板となるバス停の製作



2021年12月 自動運転技術の社会実装を見据えた貨客混載の輸送社会実験  
地元木工所と協働し古材を活用したバス停21ヶ所を製作  
地域史に関する調査成果や収集した古写真を歴史案内板としてデザイン